

保育科短大生の福祉施設実習期間における生活調査について

Health conditions of college students during teaching practice in social welfare institutions

下村典子* 島岡みどり** 蛭田秀一**
小野雄一郎*** 矢部京之助** 伊東順子*
Noriko SIMOMURA*, Midori SIMAOKA**, Shuichi HIRUTA**
Yuichiro ONO***, Kyonosuke YABE**, Junko ITO*

In the present study, we have examined the effects of teaching practice upon student's health conditions in institutions for mentally and/or physically handicapped persons and orphans. The students studying in the Department of Child Nursing (in a junior college) participated in the 5-day practice course in one of the institutions, responding to the questionnaire. Approximately 60% students had less than 6 hours sleep a day during the period of the teaching practice. Half of the students didn't feel fit, which lasted even one week after the practice in 41% of them. The majority of them complained of physical fatigue symptoms and insufficient rest. These findings suggest that many students need higher physical fitness and strengths to work safely in the institutions and that working conditions in the institutions should be improved.

諸 言

一般的に福祉施設とは、生活環境上養護の必要性のある者、自己の心身的な理由による義務教育過程を受けられない虚弱児及び精神薄弱者を収容して、主に生活指導や作業指導を行うことを目的としている施設をいう。これら福祉施設においては、保母、炊事、清掃といったさまざまな職種の人が働いている。この内、保母職は、大学、短大の保育科の施設実習の対象となっている。しかし、実習を終えた学生からは、「とても疲れた」、「体力が続かない」等、強い身体的負担を訴える学生が少なくない。これらの学生の訴えの背景には、実習先の労働環境と学生本人の身体条件（体力、作業能力など）との間の不適合が推察されるが、施設実習の実態と、保育学生の体力とのかかわりについて扱った研究はこれまで見あたらない。

そこで、本調査研究では、施設実習を終了した学生に対してアンケート方式によって実習中の生活状況を明らかにすると共に、それが実習中の身体負担や諸症状とどう関連するかについて検討することをめざした。

方 法

調査対象者は、C短期大学保育科の女子学生156人、男子学生11人の合計167人（平均年齢19才）であった。対象者全員は1990年11月から12月までに各々、5日間実習に参加した。実習先の施設の種別と実習学生の人数は表1に示すとおりである。対象者全員に実習中の生活、健康に関するアンケート調査を行った。調査期日は、1991年4月15日に行った。調査内容は補遺に示す。

- * 中京短期大学
- ** 名古屋大学総合保健体育科学センター
- *** 名古屋大学医学部衛生学教室
- * Chukyo Community College
- ** Research Center of Health, Physical Fitness and Sports, Nagoya University
- *** Department of Hygiene, Nagoya University School of Medicine

表1 実習先の施設と人数 (167人)

A	精神薄弱者施設	35人
B	精神薄弱者授産施設	33人
C	養護施設	32人
D	〃	10人
E	〃	23人
F	〃	9人
G	精神薄弱者更生施設	16人
H	虚弱児施設	9人

表2 起床,就寝時刻及び睡眠時間についての人数割合 (%)

起床時刻	5:00 ～5:29	5:30 ～5:59	6:00 ～6:29	6:30 ～6:59	7:00 ～7:29
(%)	37	14	43	0	4
就寝時刻	21時台	22時台	23時台	24時台	1時台
(%)	5	16	33	33	8
睡眠時間	4時間台	5時間台	6時間台	7時間台	8時間以上
(%)	5	30	40	16	7

結 果

I. 実習中の生活状況

起床時刻については、約半数の学生 (51%) が午前 5 時台に起床していた。

登園時刻については、55%の学生が無回答であった。20%の学生が6時台までに登園していた。

通勤方法は、多くの施設が寄宿制をとっているため、わずか9%の学生が交通機関を利用していた。

就寝時刻については、66%の学生が23時台から24時台と過半数を占め、午前1時以降の就寝と回答した学生は8%であった。

睡眠時間については、30%の学生が5時間台、40%の学生が6時間台の睡眠時間であった。最も短い4時間台の学生が5%いた。

II. 体調や自覚症状について

実習前1週間の体調は、良33%、やや良13%、普通46%であった。実習中の体調は、普通と回答した学生が34%、やや不調と回答した学生は44%、明らかな不調を訴えた学生は5%であった。実習後1週間の体調は、59%の学生は普通または良好と回答したが、残りの41%は実習後1週間経過しても体調の不調を訴えた。

実習期間中の自覚症状については、自覚症状の4段階のうち“しばしばあった”と“いつもあった”を合わせた合計で20%以上の局部は、頸肩がこる (34%)、痛い (21%)、腕がだるい

(20%)、腰がだるい (21%)、痛い (22%)、便秘 (28%) であった。(表3)

実習当日の疲労がほとんどないと回答した学生は、わずか0.6%であった。しかし、やや疲れる、かなり疲れると回答した学生は72%にもおよび、ひどく疲れる、疲れきると回答した学生は27%であった。

また、全体の学生の73%が、翌日まで残る疲労を感じていた。この内、疲労がいつも残ると回答した学生が11%、しばしば残ると回答した学生が17%であった。疲労がないとの回答は、わずか4%であった。

女子学生で実習中生理だったとの回答は、全体の22%であった。また、8%の女子学生が生理痛があったと回答した。

III. 実習に対する学生の評価 (表4)

半数以上の学生が、実習に対して精神的 (76%) あるいは肉体的 (62%) に大変と回答した。また、約50%の学生が休息時間が十分でなかったと回答した。体力がもっと必要だと感じた学生は、全体の78%であった。

学校で習得した知識が役立ったと回答した学生は27%で、88%の学生がもっと保育の知識が必要と回答した。

自分は、施設保母に向かないと感じた学生は18%おり52%がどちらでもないと回答した。

業務は楽だったという学生は、全体の24%にすぎなかった。

表3 実習期間中に感じた自覚症状 (%)

	目						頸, 肩		腕		背中	
	疲れる	痛い	かすむ	涙が出る	痙攣	乾く	こる	痛い	だるい	痛い	だるい	痛い
なかった	57	87	86	89	74	95	36	56	51	71	74	81
ときどきあった	31	9	11	7	19	4	30	22	29	18	15	11
しばしばあった	10	3	2	4	5	0.5	16	13	15	7	8	4
いつもあった	1	1	0	0	1	0.5	18	8	5	4	2	3

	腰		手, 指		足, 下肢		頭	顔	頬	息	声		のど	便秘
	だるい	痛い	だるい	だるい	痛い	痛い	かゆい	赤くなる	苦しい	しわかれ	出にくい	痛い	あった	
なかった	52	53	87	55	75	66	94	84	92	85	80	66	49	
ときどきあった	27	25	10	31	17	24	4	10	4	9	13	18	23	
しばしばあった	15	14	2	11	5	6	1	2	2	4	4	11	13	
いつもあった	6	8	0	3	2	3	0	2	1	1	2	5	15	

考 察

1. 施設実習中の生活について

半数以上 (55%) の学生が登園時刻に無回答であったことは、実習生の90%が施設に寄宿していたためと考えられる。このため実習生自体の意識として労働時間 (実習時間) と個人の日常生活時間の明確な区別がなかったように思われる。実習期間中、休憩時間が不十分と答えたのが49%、自由時間が少ないが44%とあったことから、実習生の個人的な時間が少なかったように推測される。

2. 自覚症状, 体調について

現役の保母の間で職業病として頸肩腕障害、腰背部痛障害があげられている。本学生の実習中には、いずれの身体局部においても顕著な訴えはみられなかったものの、その中でも訴えの多い局部は、頸、肩、腕、腰の部所で2~3割の訴え率であった。小野ら⁴⁾は、民間保育園保母の形態および診察による理学的所見について、他の部位より頸肩、腕神経叢部と背腰部に陽性所見が多いことを報告している。本研究の実習中の学生の自覚症状も同様の部位であった。これらの部位に自覚症状がみられた理由として、労働内容や労働量が関係すると思われる。保育園保母の労働内容に関する報告^{1), 2), 3)}

表4 実習に関する感想 (%)

	はい	いいえ	どちらでもない
精神的に大変	76	13	10
肉体的に大変	62	18	19
休息が不十分	49	30	19
自由時間が少ない	44	34	20
ぐっすり眠れない	26	57	16
保育の知識が必要	88	2	8
体力が必要	75	11	13
学校での知識が役立つ	27	16	56
保母に向かない	18	29	52
保母はやりがいがある	60	4	34
業務は楽にこなせた	24	27	48
生活が充実していた	41	20	38

によれば、その内容は、子供を抱き上げての移動や、子供の身の回りの世話のために行う上体の前屈姿勢等、比較的高水準の負荷を伴う筋作業が含まれており、頸肩腕、腰背部に負荷が高かったことと思われる。

実習前後の体調についてみると、実習前には、やや不調、または、不調と答えたものが8%に

すぎなかったものが、実習期間中に体調の不調を訴える割合は49%、その一週間後でも41%と高水準になった。このことから、学生にとって実習生としての生活がかなりの心身への負担となったことが推察できる。具体的には上述した労働内容の特性とあわせて睡眠時間の少ないことや休息の不充分さが不調感に関係している可能性が考えられる。

3. 実習に対する評価について

半数以上の学生が感想として取り上げた項目は、精神的に大変(76%)、肉体的に大変(62%)、保育の知識が必要(88%)、体力が必要(75%)、保育はやりがいがある(60%)であった。このことから学生の多くが、保母、指導員の仕事を精神的にも身体的にも負担の重い労働だと認識したことがうかがえる。一方約6割の学生が「保母がやりがいがある」と、また9割近くの学生が、「保育の知識が必要」と答えており、本研究における学生は専門職としての意識が高く向学心が強いと考えられる。それに対し、学校での知識が役立つと答えた学生は、約3割弱であった。この低い回答率は、1年の時点での実習に関する調査ということが関係しているのかもしれない。

島岡ら⁵⁾は、長期間に渡って保育労働に従事するためには、背筋力に代表される筋群の力と、長時間勤務に耐えるための全身持久力が特に大事な要素であると報告している。本研究でも75%もの学生が体力の必要性を実感していることから、在学中に体力を強化しておくことが、将来施設保母という労働条件の厳しい職業に就労しようとする者にとって、重要な要因となると考えられる。

参 考 文 献

- 1) 遠藤巴子, 鈴木衛, 佐々木茂喜: 保母の職業姿勢における労働強度の検討—タイムスタディによる分析: 姿勢(第2回姿勢シンポジウム論文集) 財姿勢研究所編集, 181-187, 1977
- 2) 越河六郎, 吉竹博, 飯田久仁子: 保育所保母の作業と労働負担(1)作業時間調査: 労働科学, 52:203-218, 1972.
- 3) 越河六郎: 保育所保母の作業と労働負担(2)作業の性質について: 労働科学, 52:241-244, 1976.
- 4) 小野雄一郎, 島岡みどり, 蛭田秀一: 働く女性の体力と、身体活動量および筋骨格系健康障害との関連: 体力研究, 75:22-32, 1990.
- 5) 島岡みどり, 島岡清, 蛭田秀一, 小林寛道: 同一職業における20~47才の女性労働者の体力—保母の場合: 総合保健体育科学, 12:77-84, 1989.

(1991年11月27日受付)

〈補 遺〉

施設実習（1年生時）に関するアンケート

入学年（2ケタ）
学籍番号（3ケタ）
（ローマ字で記入）

1-2									
3-5									
6-17									
18-29									

姓
名

I. 実習施設等についての質問

[J 1] ①保育所実習を行なった期間 ①1990年 月 日 から 月 日 まで ② 日 38

②実習日数は何日でしたか。（休日、祭日を除く）

[J 2] 実習施設名とその所在地（ローマ字で記入）

①施設名	39-48
②所在県名	49-58
③所在市町村名	59-68

[J 3] 実習施設の公私の別 (1. 公立 2. 私立) 69

[J 4] 主に担当した実習クラスと人数

①担当クラスの年齢 ① 70

1. 0才児 2. 1才児 3. 2才児 4. 3才児 5. 4才児

6. 5才児 7. 0・1才児 8. 1・2才児 9. その他の混合年齢

②人数 ② 人 71-72

II. 施設実習中の生活についての質問

[J 1] 実習園へ主たる通勤手段はどれですか。

1. 徒歩 2. 自転車 3. 単車 4. 自家用車 5. バス

6. 電車・地下鉄 7. その他 () 73

[J 2] 通勤時間は片道どれくらいでしたか。

[J 3] 実習中、次の時刻は何時ごろでしたか。(24時間制)

①起床時刻	時	分	78-81
②登園時刻	時	分	82-85
③退園時刻	時	分	86-89
④夕食時刻	時	分	90-93
⑤就寝時刻	時	分	94-97

[J 4] 実習中、睡眠時間は平均どれくらいでしたか。

[J 5] 帰宅後、実習記録の記入や翌日の準備等にどれくらい時間をかけましたか。
(実習中の1日平均)

III. 体調についての質問

[P 1] 実習前後の体調について以下の1～5の段階からあてはまるものを選んで下さい。

1. 良好 2. やや良好 3. 普通 4. やや不調 5. 不調

①実習前1週間 ① 106

②実習中 ② 107

③実習後1週間 ③ 108

[P 2] ①実習中に体調を崩して欠席をしましたか。(1.はい 2.いいえ) ① 109

②欠席した日数は何日ですか。 ② 日 110

③欠席した主たる理由は次のどれですか。 ③ 111

[P 3] 実習中の自分の活動状況についてあてはまるものを選んで下さい。

1. 発熱 2. 頭痛 3. 腰痛 4. 筋肉・関節痛 5. 腹痛・はきけ

6. せき・たん 7. 生理痛 8. その他 () ① 112

[P 3] 実習中の自分の活動状況についてあてはまるものを選んで下さい。

1. 子ども達と遊ばないきり外遊びなどの活動ができた。

2. 外遊びなどの活動をしたかったが、体がついていかなかった。

3. あまり外遊びなどはしなかった。

[P 4] 実習期間中に下記のような自覚症状がありましたか。以下の1～4の段階のいずれかひとつを①～④の各項目に対して回答して下さい。

1. なかった 2. ときどきあった 3. しばしばあった 4. いつもあった

①目が疲れる ① 113

②目が痛い ② 114

③目がかすむ ③ 115

④涙がでる ④ 116

⑤目の周囲や、まぶたがびくびくとふるえる ⑤ 117

⑥目が乾く ⑥ 118

⑦頸や肩がこる ⑦ 119

⑧頸や肩が痛い ⑧ 120

⑨腕がだるい ⑨ 121

⑩腕が痛い ⑩ 122

⑪背中がだるい ⑪ 123

⑫背中が痛い ⑫ 124

⑬腰がだるい ⑬ 125

⑭腰が痛い ⑭ 126

⑮手指がだるい ⑮ 127

⑯足、下肢がだるい ⑯ 128

⑰足、下肢が痛い ⑰ 129

⑱頭が痛い ⑱ 130

⑲顔がかゆくなる ⑲ 131

- ⑳ 頬（ほお）が赤くなる、ほてる
 ㉑ 息が苦しい
 ㉒ 声が生かわれる
 ㉓ 声が出にくい
 ㉔ のどが痛い
 ㉕ 便秘

[P 5] 一日の実習が終わったときどのような疲れ方が多かったですか。

- 非常に疲れきってしまう
- ひどく疲れる
- かなり疲れる
- やや疲れる
- ほとんど疲れない

[P 6] 実習期間中、疲れが次の日まで残りましたか。

- いつも（週 6～7 日）
- しばしば（週 4～5 日）残る
- 時々（週 2～3 日）残る
- ほとんど残らない（週 1 日くらい）

[P 7] 生理痛はありましたか。

- あった
- 生理はあったが生理痛はなかった
- 実習中、生理にならなかった

[P 8] 以下は、施設実習を終えた何人かの実習生の感想である。

あなたはどうかだったですか。(1.はい 2.いいえ 3.どちらともいえない)

- | | |
|---------------------------|-----|
| ①精神的に大変だった。 | 141 |
| ②肉体的に大変だった。 | 142 |
| ③休息が十分に取れなかった。 | 143 |
| ④通勤が大変だった。 | 144 |
| ⑤自由時間が少なかった。 | 145 |
| ⑥夜、ぐっすり眠れなかった。 | 146 |
| ⑦もっと、保育に関する知識が必要だと思った。 | 147 |
| ⑧もっと、体力が必要だと思った。 | 148 |
| ⑨学校で習った知識が役に立たなかった。 | 149 |
| ⑩自分は保母に向かないと思った。 | 150 |
| ⑪保母はやりがいのある仕事だとあらためて実感した。 | 151 |
| ⑫与えられた業務を比較的楽にこなせた。 | 152 |
| ⑬生活が充実していた。 | 153 |

[P 9] 1 年生時に実施したそれぞれの実習について、あてはまるものを 1～5 から選んで下さい。(行った実習すべてについて記入して下さい)

- 楽だった
- まあ楽だった
- どちらともいえない
- つらかった
- 非常につらかった

精神									
肉									
体									
的									
的									

① 保育所実習 154-5
 ② 施設実習 156-7
 ③ 観察実習 158-9
 ④ 実習 160-1

予備①									
予備②								9	

162-165
166-169

[P 10] 施設実習で特につらいと感じたことについて書いて下さい。
 (その他に何か感じたり、考えたりしたことがあれば記述してください)